

— 企画展 —

国芳が描く木曾路の名所旧跡 『木曾街道六十九駅展』



第51回

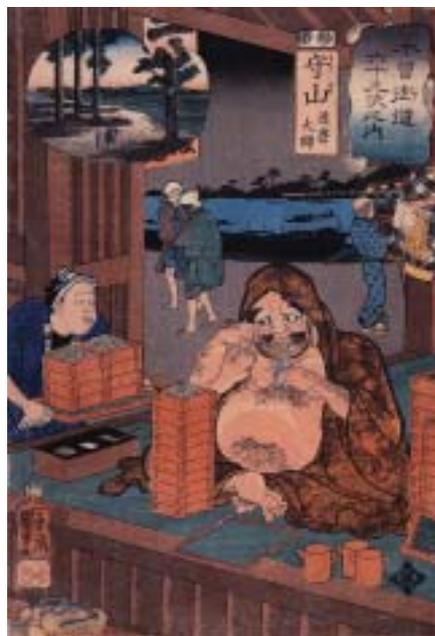
歌川国芳（1797～1862）は、武者絵で名を挙げた浮世絵師ですが、美人画や風景画、戯画、風刺画なども得意としていました。嘉永2年（1852）から翌年にかけて国芳が制作した「木曾街道六十九駅」は、木曾街道の六十九宿を一宿一図ずつ、始点と終点の江戸と京、これに目録を加えた全72枚揃の大揃です。

このシリーズは木曾街道をテーマとしながらも、いわゆる名所絵（風景画）とは一線を画す構成が見られます。それは、宿場の風景は画面左上に配されたコマ絵の中に小さく描かれるのみで、前面に大きく描かれるのは歴史説話や歌舞伎などに登場する人物たちだということです。これらの図は木曾路の各宿場に関連する、あるいは連想される物語を描いたものです。コマ絵の形と外題枠に施された意匠は、前面の物語と関連のあるものになっています。

図は本シリーズのうち「守山 達磨大師」です。達磨大師が口いっぱい蕎麦をほおばり、追加の蕎麦を持ってきた小僧は驚いた表情で達磨を見つめている大変ユーモラスな一図です。達磨が行った「面壁九年」の修行と「麵」をかけて、蕎麦を食う達磨が描かれているのです。一見、宿場守山とは無関係な図に思えますが、蕎麦が山盛りになっている様子から、「守山」を連想する言葉遊びにより、宿場と図は結びついているのです。コマ絵は、僧である達磨と関連のある木魚の形をしています。

このように国芳の「木曾街道六十九駅」は、言葉遊びをふんだんに用いて様々な物語を宿場ごと

に絵画化することで、鑑賞者の知的遊戯心をくすぐる工夫を随所にちりばめています。この度は、国芳の画技が最も円熟した時期に制作された「木曾街道六十九駅」



全作品を紹介いたします。北斎や広重、国貞が描いた街道絵とは違う、新たな国芳ワールドが発見されるでしょう。

那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 河野結美

【会 期】 11月27日（金）～平成22年1月11日（月祝）

【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで（但し入館は4時30分まで）

【休 館 日】 12月14日、21日、24日、28日～平成22年1月2日、4日

【テレビ放映のお知らせ】 放映日 12月20日（日） ①午前9時～、②午後8時～ NHK教育テレビ「新日曜美術館」の中のアートシーンのコーナーで馬頭広重美術館が紹介されます

ミニギャラリー 作品募集！

あなたの作品をここに出品してみませんか？

絵画、写真、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問合せ：企画財政課
☎0287-92-1114

入選 「花の風まつり」
矢野健一郎さん（日光市）



ミニ ギャラリー

ばとう道の駅
写真コンテスト
受賞作品



入選 「さらさら舞に舞こ」
大槻晃一さん（宇都宮市）